

(様式2)

令和4年度佐賀大学研究者国際交流支援事業報告書

令和 4年 12月 12日

国際交流推進センター長 殿

事業責任者(申請者)

所 属 理工学部(自然科学域理工学系)

職 名 教授

氏 名 三島 伸雄

下記のとおり令和4年度佐賀大学研究者国際交流支援事業の実施結果について報告します。

1.国際研究集会名	日澳建築都市デザインワークショップ(環アジア国際セミナー)		
2.事業責任者 (申請者)	三島 伸雄	3.所属・職名	理工学部・三島伸雄
4.開催期間	令和 4年 11月 25日 ~ 令和 4年 12月 7日		
5.申請区分	A) 学術交流協定(大学名) <input checked="" type="radio"/> B) 共同研究 C) 一般		
6.参加者数 ※参加者名簿(別添) を添付	参加者数 <u>47名</u> 内、外国人数 <u>16名</u> 、研究者数 <u>15名</u> 、 学部学生数 <u>15名</u> 、修士以上学生数 <u>13名</u>		
7.招待講師	所 属 <u>ウィーン工科大学 JASEC</u> 職 名 <u>上級研究員・博士</u> 氏 名 <u>Iris Mach</u> 所 属 <u>ウィーン工科大学 JASEC</u> 職 名 <u>シニア講師・工学修士</u> 氏 名 <u>Thomas Rief</u> 所 属 <u>ウィーン工科大学 JASEC(日本オーストリア交流センター)</u> 職 名 <u>講師・博士</u> 氏 名 <u>Barbara Rief-Vernay</u> 所 属 <u>ウィーン工科大学 建築プランニング学部</u> 職 名 <u>講師・博士</u> 氏 名 <u>Dr. Meinhard Breiling</u> 所 属 <u>ウィーン工科大学・JASEC(タリン工科大学)</u> 職 名 <u>講師(研究教授・博士)</u>		

	氏名 <u>Fabian Dembski</u>
8.支出額	金額 <u>250,000</u> 円 【内訳】 謝金 <u>0</u> 円 (講師本人から謝金不要と申し込まれたため) 旅費 <u>250,000</u> 円 消耗品費 <u>0</u> 円
9.国際研究集会の内容	
<p>本国際研究集会は、「日澳建築都市デザインワークショップ」と称して、建築・都市デザインの観点から、歴史的都市景観の保全・再生・活用に向けた空間的提案型研究を行った。11月27日～12月5日にかけて、学生9名、教員2名でウィーン工科大学JASEC（日本オーストリア科学交流センター）に直接赴き、共催で研究集会を実施した。テーマは、「世界遺産としての歴史的都市空間の保全活用に関する研究Quality of Spaces in Vienna」であった。ウィーン市は、その歴史地区が2001年に世界遺産に登録されており、本研究集会では、特にPublic space、Green space、Imageabilityに焦点をあてて現地視察、講義、調査・学生発表・意見交換を行った。</p> <p>1. 現地視察</p> <p>11月27日、11月28日に、ウィーンの視察を行った。各々、Dr. Barbara Rief, Karl Yukiko氏がツアーガイドを務めてくださった。</p> <p>11月27日は、ウィーン工科大のメインビルディングの前にあるカールス広場に集合し、カールス駅（オット・ワーグナー設計）、分離派会館、Museum Quatier、裏に残されたビーダーマイヤー様式の建築群（保存地区）などを視察した。</p> <p>11月28日は、オープニングセレモニーをJASECで行った後、ウィーン都心部に残された中世の街並みなどを視察した。</p>	



11月28日の現地視察の様子

2. 講義

ウィーンではPublic space、Green space、Imageabilityがどのように発展してきたかについて講義を受けた。また、私三島自身も講義を行った。具体的には以下の通りである。

- ・ 11月29日 Vienna, a European metropolis between history and modernity (Dr. Barbara RIEF-VERNAY)
- ・ 11月29日 Public spaces in the historic core of Vienna (Dr. Barbara RIEF-VERNAY)
- ・ 11月30日 Different categories of urban green in Vienna and their distribution in center and peripheral districts of Vienna (Dr. Meinhard BREILING)
- ・ 12月1日 Vienna: Joy, Locomotion and the Image of the City (Dr. Fabian DEMBSKI)
- ・ 12月1日 Guide to Japanese traditional towns preserved by the preservation system (Prof. Nobuo MISHIMA)



11月28日 講義

3. 調査・学生発表・意見交換

佐賀大学の学生並びにウィーン工科大学の学生で3つのグループを構成し、Public space、Green space、Imageabilityの観点からウィーンの都市空間について調査し、佐賀の都市空間と比較研究して、12月2日に中間発表、12月5日に最終発表と参加者による意見交換を行った。最終発表・意見交換では、オンラインでも佐賀大学と接続し、交流を行った。

最終発表では、学生がウィーンと日本の都市空間のイメージなどを手書きのスケッチで表現し、それらの違いについて彼らが感じていることなどが発表された。例えば、Public spaceや緑の環境（公園、庭園、農地）において、気候や文化、メンタリティなどの違いから、ベンチの配置や使われ方などが違うことなどが指摘された。ウィーンは、世界で最も生活しやすい街の1位に選ばれていることは何故か、などについても議論を交わした。

これらを通じて、歴史的都市空間の保全活用、特にQuality of Spaces in Viennaという観点から、ウィーンの街の素晴らしさ、日本（特に佐賀）のよさと違いについて、認識を深めることができた。



学生の発表



最終発表会での集合写真

10.事業実施による成果・今後の事業の発展等

世界遺産に登録されているオーストリア・ウィーン市歴史地区の歴史的変遷、空間実態、利活用状況を踏まえて、都市人口規模は1/10であるが似たような同心円的都市構造や緑地環境（農業・酒造業を含む）を有する佐賀市との相違について、相互の理解を深めることができた。そして、今後の国際交流について、詳細な意見交換を行うことができた。ウィーン工科大学の参加者の中には、来年2月に佐賀大学で実施する予定である国際ワークショップにJASSOの支援を受けて参加予定の学生にも直接コンタクトすることができ、取り組み内容などについて情報を提供し、意見交換をすることができた。特に、気候やメンタリティの違いなどから来る空間整備の違いについて理解を深めることができ、参加した学生からは、都市計画や空間計画について関心が高まったとの感想を得ることができた。学生のなかには、Noteを使わずにアドリブで発表する者も出てきて、英語に関する意欲も高まったようである。

今年度2月～3月にかけて、オーストリア・オランダ・タイからの学生を迎え入れ、鹿島市肥前浜宿で国際ワークショップを行う予定である。その中では、鹿島市肥前浜宿の建物改修について、提案作業を行う予定であり、鹿島市建設環境部都市建設課、ならびに肥前浜宿水とまちなみの会、呉竹酒造、富久千代酒造などの協力を得る予定である。また、これらの事業を来年度以降も実施し、歴史的町並み保全活用に関する知見を高めるとともに、学生たちの提案も交えて、具体的な整備に取り組む。

REGENERATION OF ARCHITECTURAL HERITAGE IN JAPAN

INTERNATIONAL WORKSHOP 2023
14th - 24th FEBRUARY 2023

Hizen Hama Sake brewing culture Connecting the tangible and the intangible

Organised and sponsored by:



SAGA UNIVERSITY
国立大学法人 佐賀大学



独立行政法人
日本学生支援機構
JASS-O
Japan Student Services Organization

Participating institutions:



TECHNISCHE
UNIVERSITÄT
WIEN
Vienna University of
Technology

D A

Design Academy
E
Eindhoven



Workshop Program (Tentative)

- 13th: Welcome ceremony
- 14th: Visit of Hizenhama-shuku & Lecture
- 15th: Visit of Hizenhama-shuku
- 16th: Group work
- 17th: Group work
- 18th: Free time with Lab mates
- 19th: Free time with Lab mates
- 20th: Middle presentation
- 21th: Group work
- 22th: Group work
- 23th: Final presentation, closing ceremony
- 24th: Free time

Hizen Hamashuku is a post town in Kashima, Saga, Japan that is dotted with sake breweries since Edo era. It is a popular travel destination for both Japanese and foreign travelers. As an Important Preservation District for Groups of Traditional Buildings, the historical region is representative of both tangible and intangible heritage of Japan from Edo era, throughout Meiji, and Showa eras.

Assignment:

A proposal of regeneration of a small traditional building for Japanese sake bar in Hizenhama-shuku.

Organizing committee:

President : Prof. Nobuo Mishima
Staffs : Assist. Prof. Takayuki Fuchikami
Assist. Prof. Rami M. Derbel
TA: Patcharaporn Duangputtan (Chiffon)
TA: Kanami Nishimura

2月に予定している国際ワークショップのフライヤー

※欄内に収まらない場合、適宜、行を追加し、ページを増やしていただいても構いません。